（様式第４号）　**上田市交流文化芸術センター運営協議会　会議概要**

１ 審 議 会 名	第２回上田市交流文化芸術センター運営協議会
２ 日　　時	令和７年８月 18 日　午後２時 00 分から午後４時 00 分まで
３ 会　　場	サントミューゼ　大スタジオ
４ 出 席 者	荒井洋文委員、今井拓也委員、岩木功委員、田中美恵子委員、中村彰委員、馬場雄一郎委員（五十音順）、 （助言者：吉本光宏（一財）長野県文化振興事業団理事長）
５ 市側出席者	小林文化スポーツ観光部長、荻原館長兼総合プロデューサー、堀内副館長、中村副館長補佐、小泉舞台技術係長、田澤事業係長、馬場総務係長
６ 公開･非公開	公　開　・　一部公開　・　非公開
７ 傍 聴 者	０人　　記者　０人
８ 会議概要作成年月日	令和７年８月 19 日

協　　議　　事　　項　　等

第２回　交流文化芸術センター運営協議会

１　開会（副館長）

２　あいさつ（館長）

３　事務局自己紹介

４　会議事項（進行：副会長）

（1）上田市交流文化芸術センター第３期運営管理計画の策定について

【説明 1】（事務局）資料に沿い、上田市交流文化芸術センター 第２期（令和３年度から令和７年度）運営管理計画の実績成果及び課題について説明

【質疑】

（委員）地域のアーティストとの連携（した事業）とは具体的にどうか

（事務局）当初、地元演奏家を講師とした少人数対象のリトミック的な音楽事業を想定していたが、地域の民間音楽教室との取り組みのすみ分け等の課題があることから実施に至っていない。

（委員）上田ならではの事業ができればという意見があるが、具体的なイメージはあるか。

（事務局）サントミューゼが有すアーティストネットワークや上田の伝統芸能や地域資源等を生かすことも子供の育成にとっては大切であり、美術館や教育委員会、語りべ等との連携による事業などが展開できたら良い。

（委員）ふれあいクラスコンサートに関連して、市内中学校で音楽の合唱部があるのは３校のみ。小学校までやっていて続けたいが続けられない生徒もいる。声楽のアーティスト派遣もあったら良い。

（事務局）コロナ禍前には声楽のアーティストも派遣していたが、それ以降一旦途絶えている。合唱も魅力的な分野であり、器楽だけではなく声楽のアーティスト派遣も考えていきたい。

【説明 2】（事務局）資料に沿い、上田市交流文化芸術センター 第２期（令和３年度から令和７年度）運営管理計画の実績成果及び課題について説明

（委員）客席規模や舞台設備・機能の利用状況に応じた貸館のマッチングなどについては考えているか

（事務局）客席数にあった規模の貸館利用をお願いしているが、舞台設備の利用有無による可否は行っていない。但し、当館でなくては開催できないような団体・催しが入れないなどの状況が拡大した際は、検討してく。

【コメント】（助言者）高校生の演劇事業に関連して、形を変えて実施していくとして、参加した生徒は深い経験をしているが、反面演劇をやりたい子が減少している状況で、サントミューゼとして何をするのかよく考えた方が得た方が良い。

アクティブラーニングについて、コーディネーターとなる人の専門性は非常に大切

オーケストラ事業をどうしていくかは悩ましい。せっかく素晴らしいホールがあるので、どのように生かしていくか大変だけれども工夫が必要

動画配信への取り組みに関して、過去にサントミューゼで作成したものも、ダイジェスト版などにして有効に活用できれば良い

【説明 3】（事務局）資料に沿い、上田市交流文化芸術センター 第 2 期（令和 3 年度から令和 7 年度）運営管理計画の実績成果及び課題について説明

【質疑】

（委員）複合施設としてのメリットは何かあったのか

（事務局）美術館の展覧会の内容に対し、コンサートの演奏曲の時代を合わせたり、バレエ公演にあわせて美術館の子どもアトリエでバレエ関連のものを作成したりしてきた。今後も連携した事業などを行いたい。

（委員）意見として、サントミューゼの舞台技術スタッフについて、打合せ段階からかかわっていただけるのは利用者からはとてもありがたく、直営では人件費等の問題や異動などによる人の入れ替えなど課題もあるが、今後も引き続きお願いしたい。

【コメント】（助言者）直営だからできることやメリットはあるが、最大の課題は専門職をどう保っていくかである。ソフト事業をやる館において専門家がいないと事業が行えず、ひいては市民サービスの低下に直結していくこととなる。この点どうしていくのかはしっかりと考えないと自立は難しい。それをどう補うかは様々な工夫もあるが、指定管理者制度についても問題ばかりではないので検討する余地はある。

【説明 4】（事務局）資料に沿い、上田市交流文化芸術センター 第 2 期（令和 3 年度から令和 7 年度）運営管理計画の実績成果及び課題について説明

【質疑】

（委員）貸館の対応について、現行のやり方でも良い面もあると思うが、インターネットや電話予約の導入はできないか

（事務局）簡単に予約できる反面、簡単にキャンセルが可能となったり、同じ方が複数予約し、新たに利用したいができないなどの問題点を解決し、当館の施設や区分等に合致するシステムの導入などを検討する。

【コメント】（助言者）人件費については、直営の方が有利ではある。

貸館のシステム導入については、県の施設でも導入したことから、情報提供はできる。

5　その他

（事務局）次回の協議会開催日程等について確認

文化スポーツ観光部長あいさつ

6　閉会（副館長）